

そよ風

第10号

今治市立立花中学校

あっという間に3月。今年度も残すところあとわずかですね。今年度最後の「そよ風」になります。桃の節句も過ぎ、ようやく陽射しの中に暖かさが感じられる頃となりました。皆さんの心の温かさはどうですか？「そよ風」をきっかけに、以前よりも家庭で身近な人権問題について話をする時間が増えたでしょうか？…

人権教育は、教科の学習と違い、みんなが理解し正しい行動をとることが大切です。一人でも理解が不十分であれば、まわり みんなで理解できるように取り組むことが必要です。気が合う人、気が合わない人など、人により好みは違いますが、寄り添う努力が大切です。これからもみんなで力を出し合い、協力し合い、支え合い、身の回りのみんなを尊重し合える立花中学校を築いていきましょう。

今月は、露の新治さん（落語家）の『お笑い人権講座』の中の「交代ペンギン」の話を紹介します。

『交代ペンギン』

NHKの「プラネットアース」すごい番組でした。冒頭、皇帝ペンギンの姿が映ります。丸々4ヶ月太陽が一切顔を見せない、零下70度という、信じられないような極寒の南極。嵐のような風が吹きすさぶ中、皇帝ペンギンのオスは、卵を足の上にのせ、全員がひとかたまりになり、じっと、ただただじっと耐えるのです。4ヶ月間、何も食べないそうです。そしてひたすら立ち続けるのです。インドのヨガの荒行どころではありません。

風をさえぎるものは何も、なんにもありません。皆がひとかたまりになって寒さをしのぐのです。当然、外側の者が一番寒い。じかに零下70度の寒風（体感温度はもっときついはず）にさらされます。一つ中へ入れればかなり違う。そして中へ行くほど「ぬくぬく」です。見ていて「不公平だな」と思いました。すごいのはそれからです。なんと「外側と内側の者が交代してゆく」のです。それも、もめることなく。

これ、人間やったら絶対に交代しません。「お前外側、私、内側」と争いが起こり、勝ち組はぬくぬくとし、負け組は寒風にさらされ命を縮めます。「平等に交代できるペンギンが偉い」ではありません。交代せんと、もたへんのでしょ。そして、外側から順に倒れ、結局全滅してしまうのだと思います。

過酷な環境のもとで生き残る知恵が「一人はみんなのために、みんなは一人のために」だったのです。平等というのは、うわべの優しさなんかではなく、もっともっと厳しい、強いものなんです。

4ヶ月後待望の太陽が顔をだします。そして、足の上にかわいい雛の姿。不覚にも泣いてしまいました。皇帝ペンギンはその名に反して、平等の実践者でした。皇帝ペンギンというより「交代ペンギン！」